

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395700111		
法人名	医療法人あやめ会		
事業所名	グループホームかえで Aユニット		
所在地	愛知県知多郡東浦町大字石浜字笹原28番地1		
自己評価作成日	平成30年 1月20日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2395700111-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2395700111-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年 2月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着という点から外部との接触の機会を増やし利用者様が住み慣れた町で生き生きと過ごせる環境作りに努めている。また、医療面でも看護師は配置基準として必要ないが看護師を在中し医療面での充実も図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人であり、かかりつけ医が院長で自宅も近く緊急時の対応・連携に不安はない。看護職員も常勤で24時間体制での対応と医療面が手厚く、安心して生活できる環境である。終末期の看取りの対応も充実しており主治医・看護師・家族・職員が連携して取り組む仕組みができている。法人全体の職員育成プログラムが充実しており、研修・資格手当等があり、職員のスキルアップ・意識向上に役立っている。外国人の職員も数名採用しているが、言葉の壁も工夫し、職員同士のコミュニケーションも円滑であり、働きやすい職場づくりに努めている。職員が明るく入居者との会話を大事にしているのが訪問時に確認できた。職員・利用者共に町民が多いので、訪問者も近所の方が多く、ボランティアの来所も多い。このように地域との繋がりが強く、地域密着型サービスを提供するグループホームとして機能している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着したサービスを提供し利用者様・御家族様が満足いただけるような対応に心掛けている。	ホームの理念である「地域に根付いた支援」の職員への共有は年に1回の職員会議、それぞれのネームプレートの裏に携帯する事で周知を図っている。	介護サービスの質の向上への取り組みとして職員全員が理念を共有し、実践できているか定期的な確認は必要であろう。検討課題の一つとして提案したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加・社会福祉協議会主催によるフェアに参加。	法人主催の夏祭り行事で近所へピラを配り、法人全体で100名程度の参加を得ており、地域の認知度の高さが伺える。社協のフェアで事業所を知ってもらう努力も行っている。消防訓練等で地域との連携強化の予定である。	法人としての認知度は高いので今後認知症の講義等で地域住民へ認知症の理解を深める取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状、取り組み自体は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町代表者・知見の方等からの意見を参考にし、サービスの向上に生かしている。	2か月に1回の開催で利用者・家族の参加は少ないが、自治会に入っているので民生委員、区長との繋がりは強く、情報交換できている。包括との連携はできているので相談できる関係である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	普段、密に連絡を取っている訳ではないが2か月に1回話し合いの場を設けコミュニケーションを取りながら意見の交換をしている。	町主催の「オダイちゃんネットワーク」への登録により事業所間の連絡や情報交換がスムーズにできる仕組み構築されている。町主催の研修への参加、入居にあたっての相談等連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方針です。また、身体拘束になるのではという内容に関しては注意を払っている。	身体拘束は全く行わない方針で、委員会での勉強会や月に1回の職員会議で話し合っている。スピーチロックは現場でその都度注意し職員間で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会活動にて虐待について話し合いを行っている。また、ニュースで流れている虐待についての内容を申し送りしたりと職員に周知をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している方はいます。しかし、職員が制度を把握しているかという点と出ていないのは感じます。年に1回行われる勉強会を強化していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者を中心に契約後、入所後にトラブルにならないよう注意をはらっている。特に金銭面でのトラブルにも十分な説明を行っている。契約時以外にも家族に十分な案内を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃、御家族様に声掛けをし意見を聞いている。又、年に2回行われる家族会にて意見交換の場を設けている。意見に対し、出来る範囲で対応には心掛けている。	家族からの要望は面会時や意見箱にて聞き取っている。年に2回の家族会で意見交換した議題は記録に残し振り返りを行っている。本人の要望は必要な事項をケア記録に残し、職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃、職員に声掛けをし意見を聞いている。現場にすぐ落とし込めるものは落としこみ、各、委員会に該当してくるものであれば委員長に伝え取り組みを行って頂いている。	3か月に1回業務改善アンケートで意見聴取、メンタルヘルスケアチェックシートで話し合いを行っている。緊急時連絡帳に記入した職員の意見を申し送り時に提示し、すぐに支援に繋げられる仕組みができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や実績等を本部に伝え評価した上で給与に反映している。労働時間に関しては相手の意見を聞き平等に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に関して、一覧表を作成し職員が自由に研修を選択できるようにしている。勤務の考慮や研修費の負担も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回、勉強会の開催を行っている。勉強会の中で意見を交換し合い問題に対して取り組んでいる。しかし、同じ法人内の他施設との職員とはあまり交流がない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相手が思っている事を聞き取ると共に接する中で感じることもある。本人様の要望に添えるよう努力はしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こちら側が聞く前に御家族様から要望される事は多い。出来る範囲で対応はしているが、無謀な内容に関しては対応しきれないが、要望に近い対応はさせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ADLが下がったりと日頃、状態が変わっていく中でケアマネ等との連携を取り、現在行っているサービスと現状の状態を比較し適した対応を考え御家族様に提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームで、利用者様が自らこちらに寄り添って下さる環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、利用者様と御家族様の時間が出る様に空間作りに心掛けている。また、普段の些細な情報でも報告をし御家族様が気持ちよく帰ってもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	東浦の方が多いため、外部からのボランティア様で繋がりのある方を定期的にごこちらに来てもらっている。	自宅が近い入居者が多く、近所に馴染みの人が多い事もあり、馴染みの喫茶店での外食、530運動への参加、地域の祭り参加への支援や、毎月来訪する馴染みの人ボランティアを受け入れることで関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様によって性格は違いますが、中には仲睦まじく支え合っている利用者様もいます。しかし、中では性格上等で合わない方もいます。その際は職員が間に入りフォローをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解消後は基本的には連絡する事は少ないですが、他施設の異動や在宅等さまざまな形で退所する際でも安心して当事業所を退所できるようにフォローはしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望に関しては、御家族様にも意見を聞きできる範囲で対応している。また、普段何気ない会話の中でも本人様から意見を聞きだしている。	話ができる人の要望は日常のケアの中で聞き取り、話せない人の要望は家族からの聞き取りより推察し対応している。個人のケア記録(電子カルテ)に打ち込んだ情報は全職員が共有できるシステムとなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	意思表示ができない方に関しては今までの生い立ちや性格を考え暮らしやすい環境作りに心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様によって過ごし方が違う。本人様が穏やかに過ごしてもらえようその方に合った生活リズムに心掛けている。ADL等を考え体操やレクの参加を促す事はある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態を考えた上で、職員全員の情報を収集し、また御家族様の意見も反映している。	入居時に聞き取ったフェースシートを参考にし、介護計画を立て、月に1回のモニタリング、3～6か月に1回の計画の見直しを行っている。担当者会議にはなるべく家族に参加してもらい要望を介護計画に反映している。	利用者の要望の聞き取りはできているので、その要望を反映した個性のある介護計画作成への取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテを用いて、記録している。日々の利用者様の様子については実際に職員が閲覧できるようになっており、また職員が記録する為大半の職員は情報を把握している。実践等の結果は月1回の会議にて行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスのみではなく、その都度対応できるサービスを利用者様、御家族様を中心に話し合いを行い新しいサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での繋がりをもつため、地域行事に関しては年に何回か参加させて頂いている。地域の方に顔を知って頂くことで緊急時に対応出来たり、利用者様も地域とふれ合う事で心が安定した状態になるのではないかと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけの医師があるかないか確認を行っている。また、病院での送迎に関しても協力させて頂いている。病院先との連携を取り、利用者様の情報を共有させて頂いている。	殆どの入居者が法人医療機関をかかりつけ医にしており、2週間に1回の往診がある。職員に2名の看護師配置があり24時間体制で支援にあっている。院長宅も近く夜間対応も安心である。職員対応で専門医への受診支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員からの目と看護職員からの目では差がありますが、介護職員しかみれない視点での気づきはあると思うので変化があった場合は看護師に報告するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報の共有はもちろん、月に2回以上の面会を行っている。面会以外に病院先に連絡を取り、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、御家族様との話し合いを必ず行っている。そこで本人様と御家族様の意向をしっかりと聞き対応している。また、終末期には御家族様や地域の方の時間を大切にするため宿泊を許可する場合があります。	現在の管理者になってから1名の看取りを行った。家族からはホームでの看取り希望が多く、入所時の説明と終末期になった時に再び家族と話し合い看取りの希望であれば、主治医と連携し看取りを行う方向で検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生に関してはマニュアルを作成している。また、年に1回ある勉強会で対応方法について説明させて頂いている。日頃も職員が疑問に思っている点を正確に伝え、いざという時にしっかりと対応できるように心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回消防訓練を行っている。また、消防員立会いによる訓練を年2回行っている。地域の方との連携に関しては2カ月に1回行う会議にて話し合いを行い連携をとっている。	法人内合同での避難訓練を行っており、水害時の避難訓練での課題から避難場所等を検討中である。備蓄品、大きな貯水タンク完備、普通救命の消防訓練講習の全職員受講予定等、災害対策に力を入れている。	災害時、地域の協力が不可欠であるので消防訓練に地域住民が参加できるような関係構築にを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様によって敬語での話しかけがいい方やフレンドリーに接して欲しい利用者様もいるため、プライバシーをまもりつつ個々に合わせて対応している。	トイレ介助は利用者が嫌がる場合の同姓介助、ズボンにタオルを掛けるなどの配慮を行っている。外部研修も多く、個人の尊厳やプライバシーについて職員への周知のための取り組みがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアを行うにあたって、まずは本人様に確認をとるようにしている。口で意志を発することが出来ない利用者様に対してはジェスチャー等で相手の気持ちを確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールは決まっているが、その中で本人様がくつろいで過ごせるように本人様のペースに合わせている。また、要望に関してはその都度対応できるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や目ヤニ等、目に見える部分に関して職員が配慮し対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、献立が決まっているので要望になかなか応えられない部分はあるが、給食委員会を中心に年に何回か利用者様の要望を聞いている。準備や方付けに関して、自ら率先して行って下さる利用者様もおり職員と一緒に楽しく行っている。	月に1回の法人内給食委員会で献立の要望を検討し法人で献立を決定している。入居者の要望で週に2回朝食をパン食に変更、行事食を取り入れたりしながら食事を楽しんでもらう機会を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては委託している会社に任せている。塩分等に関しては規定があり職員が勝手に変えることはない。水分や食事の量に関してはしっかりと記録を取り管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	両ユニットに洗面台があり、そちらで口腔ケアを行っている。職員の付き添いにより残食物がないか確認し口臭や誤嚥等に繋がらないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様のその時々での状態に対応は行っている。状態が上がってくるようであれば徐々にレベルをあげ最終的には布パンツに出来るように努めている。又、オムツのコストを考え尿量に応じてパットを変える等もしている。	排泄チェック表で確認し、トイレ誘導を行っている。可能な限りトイレでの排泄を心掛け、夜間でもトイレでの排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便チェックの確認は必ず行っている。便秘気味の方には水分を増やしたり、下剤を追加したりしている。また、排便しやすいように排泄介助の際はお腹をあたためたり、圧力をかけたりと対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の人数の関係もあり、なかなか希望の時間に入るという事が出来ない状態である。しかし、利用者様によって今日は入りたくないという方には無理はさせず曜日を変えるという方法はとっている。	週に2回の入浴支援を行っている。それ以上の入浴希望者は有料で支援している。一番風呂の要望等は対応できているが、入浴時間は午前中で、夜入浴希望の場合は職員の人員配置で希望に添えない状態である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々での状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様によって、遅くまで起きている方もいればすぐに横になる方もいます。その方に合わせ職員も対応しています。部屋にテレビがない方でも食堂でテレビを見て本人様が部屋に戻り寝るという体制になるまで職員がついていることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が在住しており、介護職員に対して危険である薬に関しては説明を行っている。介護職員は看護師と違って知識がない為、会議等で説明を行っている時もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生き立ちがさまざまな方ばかりです。本人様の昔の状態を把握し興味を持たれるのではないかと、この事に関して勤めるようにしている。また、利用者様自身が要望された場合は拒否をすることなく職員も一緒に楽しんで行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の勤務人数によるが、普段の場合外へ散歩に行くという事は出来ている。普段、いけないような場所に関しては利用者様の意見を聞いたことを反映することもある。また、その際には御家族様や地域の方と連絡を取り合いスムーズに計画がいくように努めている。	日常的な外出は近所の散歩や外食、年に数回季節行事としての外出でいちご狩り・ぶどう狩り・花見・水族館への外出等マイクロバス貸し切りでグループホーム合同の1日がかりの外出支援を行った事もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様によって異なるが、御家族様の要望で本人様にお金を持たせないという方が多いです。しかし、飲みもを買いたい等要望があった場合に備え事務所で少額預かりを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に電話でのやりとりに関しては行っていないが、手紙に関しては本人様から要望があれば対応している。しかし、本人様からの強い要望があれば電話の対応はしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節による雰囲気作りには気を使っている。冬場のトイレに関しては便座を温かくする等、居心地のいい空間作りに努めている。	窓が大きく明るく広々とした雰囲気のあるホームである。床に障害物は無く、シンプルな造りで動きやすく、トイレの表示は解りやすいので入居者が生活しやすい居住空間である。居室の入り口にはそれぞれ花が飾られており、災害時の避難確認の目安としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい利用者様に関しては自ら居室に戻られたり自分で動かれる方が多いがその気持ちを察し無理やり環境を変えようとするのではない。気の合った利用者様が楽しく過ごせるようにソファをセッティングしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には付属されているタンスやベッドを使用しているが、災害時に出入りが塞がれない物は持ち込み可としている。本人様の居住スペースですので個人の自由にさせて頂いています。	居間で一日の殆どを過ごす利用者が多く、居室は寝るだけの空間であるので、すっきりとシンプルな部屋が多い。ソファ・鏡台・家族の写真等を飾っている利用者も居て、生活感が伺える自分らしい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自己歩行をされる方もいますので、障害物となるものはなるべく置かない、配線等にも気を使っています。利用者様が分かりやすいようにトイレの案内等も掲示している。また、居室に関しては自分の部屋だと分かるように目印も付けている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395700111		
法人名	医療法人あやめ会		
事業所名	グループホームかえで Bユニット		
所在地	愛知県知多郡東浦町大字石浜字笹原28番地1		
自己評価作成日	平成30年 1月20日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2395700111-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2395700111-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年 2月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着という点から外部との接触の機会を増やし利用者様が住み慣れた町で生き生きと過ごせる環境作りに努めている。また、医療面でも看護師は配置基準として必要ないが看護師を在中し医療面での充実も図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着したサービスを提供し利用者様・御家族様が満足いただけるような対応に心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加・社会福祉協議会主催によるフェアに参加。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状、取り組み自体は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町代表者・知見の方等からの意見を参考にし、サービスの向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	普段、密に連絡を取っている訳ではないが2カ月に1回話し合いの場を設けコミュニケーションを取りながら意見の交換をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方針です。また、身体拘束になるのではという内容に関しては注意を払っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会活動にて虐待について話し合いを行っている。また、ニュースで流れている虐待についての内容を申し送りしたりと職員に周知をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している方はいます。しかし、職員が制度を把握しているかという点と出来ていないのは感じます。年に1回行われる勉強会を強化していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者を中心に契約後、入所後にトラブルにならないよう注意をはらっている。特に金銭面でのトラブルにも十分な説明を行っている。契約時以外にも家族に十分な案内を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃、御家族様に声掛けをし意見を聞いている。又、年に2回行われる家族会にて意見交換の場を設けている。意見に対し、出来る範囲で対応には心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃、職員に声掛けをし意見を聞いている。現場にすぐ落とし込めるものは落としこみ、各、委員会に該当してくるものであれば委員長に伝え取り組みを行って頂いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や実績等を本部に伝え評価した上で給与に反映している。労働時間に関しては相手の意見を聞き平等に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に関して、一覧表を作成し職員が自由に研修を選択できるようにしている。勤務の考慮や研修費の負担も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回、勉強会の開催を行っている。勉強会の中で意見を交換し合い問題に対して取り組んでいる。しかし、同じ法人内の他施設との職員とはあまり交流がない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相手が思っている事を聞き取ると共に接する中で感じることもある。本人様の要望に添えるよう努力はしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こちら側が聞く前に御家族様から要望される事は多い。出来る範囲で対応はしているが、無謀な内容に関しては対応しきれないが、要望に近い対応はさせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ADLが下がったりと日頃、状態が変わっていく中でケアマネ等との連携を取り、現在行っているサービスと現状の状態を比較し適した対応を考え御家族様に提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームで、利用者様が自らこちらに寄り添って下さる環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、利用者様と御家族様の時間が出る様に空間作りに心掛けている。また、普段の些細な情報でも報告をし御家族様が気持ちよく帰ってもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	東浦の方が多いため、外部からのボランティア様で繋がりのある方を定期的はこちらに来てもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様によって性格が違いますが、中では仲睦まじく支え合っている利用者様もいます。しかし、中では性格上等で合わない方もいます。その際は職員が間に入りフォローをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解消後は基本的には連絡する事は少ないですが、他施設の異動や在宅等さまざまな形で退所する際でも安心して当事業所を退所できるようにフォローはしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望に関しては、御家族様にも意見を聞きできる範囲で対応している。また、普段何気ない会話の中でも本人様から意見を聞きだしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	意思表示ができない方に関しては今までの生い立ちや性格を考え暮らしやすい環境作りに心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様によって過ごし方が違う。本人様が穏やかに過ごしてもらえるようその方に合った生活リズムに心掛けている。ADL等を考え体操やレクの参加を促す事はある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態を考えた上で、職員全員の情報を収集し、また御家族様の意見も反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテを用いて、記録している。日々の利用者様の様子については実際に職員が閲覧できるようになっており、また職員が記録する為大半の職員は情報を把握している。実践等の結果は月1回の会議にて行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスのみではなく、その都度対応できるサービスを利用者様、御家族様を中心に話し合いを行い新しいサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での繋がりをもつため、地域行事に関しては年に何回か参加させて頂いている。地域の方に顔を知って頂くことで緊急時に対応出来たり、利用者様も地域とふれ合う事で心が安定した状態になるのではないかと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけの医師があるかないか確認を行っている。また、病院での送迎に関しても協力させて頂いている。病院先との連携を取り、利用者様の情報を共有させて頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員からの目と看護職員からの目では差がありますが、介護職員しかみれない視点での気づきはあると思うので変化があった場合は看護師に報告するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報の共有はもちろん、月に2回以上の面会を行っている。面会以外に病院先に連絡を取り、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、御家族様との話し合いを必ず行っている。そこで本人様と御家族様の意向をしっかりと聞き対応している。また、終末期には御家族様や地域の方の時間を大切にするため宿泊を許可する場合があります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生に関してはマニュアルを作成している。また、年に1回ある勉強会で対応方法について説明させて頂いている。日頃も職員が疑問に思っている点を正確に伝え、いざという時にしっかりと対応できるように心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回消防訓練を行っている。また、消防員立会いによる訓練を年2回行っている。地域の方との連携に関しては2カ月に1回行う会議にて話し合いを行い連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様によって敬語での話しかけがいい方やフレンドリーに接して欲しい利用者様もいるため、プライバシーをまもりつつ個々に合わせて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアを行うにあたって、まずは本人様に確認をとるようにしている。口で意志を発することが出来ない利用者様に対してはジェスチャー等で相手の気持ちを確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールは決まっているが、その中で本人様がくつろいで過ごせるように本人様のペースに合わせている。また、要望に関してはその都度対応できるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や目ヤニ等、目に見える部分に関して職員が配慮し対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、献立が決まっているので要望になかなか応えられない部分はあるが、給食委員会を中心に年に何回か利用者様の要望を聞いている。準備や方付けに関して、自ら率先して行って下さる利用者様もおり職員と一緒に楽しく行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては委託している会社に任せている。塩分等に関しては規定があり職員が勝手に変えることはない。水分や食事の量に関してはしっかりと記録を取り管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	両ユニットに洗面台があり、そちらで口腔ケアを行っている。職員の付き添いにより残食物がないか確認し口臭や誤嚥等に繋がらないように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様のその時々で状態では対応は行っている。状態が上がってくるようであれば徐々にレベルをあげ最終的には布パンツに出来るように努めている。又、オムツのコストを考え尿量に応じてパットを変える等もしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便チェックの確認は必ず行っている。便秘気味の方には水分を増やしたり、下剤を追加したりしている。また、排便しやすいように排泄介助の際はお腹をあたためたり、圧力をかけたりと対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の人数の関係もあり、なかなか希望の時間に入るという事が出来ない状態である。しかし、利用者様によって今日は入りたくないという方には無理はさせず曜日を変えるという方法はとっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様によって、遅くまで起きている方もいればすぐに横になる方もいます。その方に合わせ職員も対応しています。部屋にテレビがない方も食堂でテレビを見て本人様が部屋に戻り寝るという体制になるまで職員がついていることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が在住しており、介護職員に対して危険である薬に関しては説明を行っている。介護職員は看護師と違って知識がない為、会議等で説明を行っている時もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生き立ちがさまざまな方ばかりです。本人様の昔の状態を把握し興味を持たれるのではないかと、この事に関して勤めるようにしている。また、利用者様自身が要望された場合は拒否をすることなく職員も一緒に楽しんで行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の勤務人数によるが、普段の場合外へ散歩に行くという事は出来ている。普段、いけないような場所に関しては利用者様の意見を聞いたことを反映することもある。また、その際には御家族様や地域の方と連絡を取り合いスムーズに計画がいくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様によって異なるが、御家族様の要望で本人様にお金を持たせないという方が多いです。しかし、飲みもを買いたい等要望があった場合に備え事務所で少額預かりを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に電話でのやりとりに関しては行ってないが、手紙に関しては本人様から要望があれば対応している。しかし、本人様からの強い要望があれば電話の対応はしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節による雰囲気作りには気を使っている。冬場のトイレに関しては便座を温かくする等、居心地のいい空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい利用者様に関しては自ら居室に戻られたり自分で動かれる方が多いがその気持ちを察し無理やり環境を変えようとするのではない。気の合った利用者様が楽しく過ごせるようにソファをセッティングしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には付属されているタンスやベッドを使用しているが、災害時に出入り口が塞がれない物は持ち込み可としている。本人様の居住スペースですので個人の自由にさせて頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自己歩行をされる方もいますので、障害物となるものはなるべく置かない、配線等にも気を使っています。利用者様が分かりやすいようにトイレの案内等も掲示している。また、居室に関しては自分の部屋だと分かるように目印も付けている。		